



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



研究情報の
国際発信

B1-1 研究成果の国際的発信支援プログラム: 英語論文の投稿支援

若手研究者・女性研究者・外国人研究者、国際共著論文を対象に、国際的影響力の高い学術誌(WoS/Scopus収録誌)への英語論文の投稿を支援することにより、研究成果の国際的発信力を一層高め、大阪大学の研究力の強化を促進する。

本事業のポイント

長期にわたる(最長2年間)全般的なサポートの実施

- 論文の校正(再校正含む)
- 投稿前ピアレビュー
- 校正内容のダブルチェック
- 査読コメントへの対策
- リジェクトの場合の相談
- 当該研究の国際学会での発表
- 社会に研究成果を発信するためのアウトリーチ活動 等

外国人研究者へのサポート

英語・中国語での支援・相談等に対応

柔軟な受付体制

研究者が利用しやすいように、毎月受付期間を設定

専門性の高い支援

博士号をもつURAとアウトリーチ専門家によるチーム構成で、適切なアドバイスが可能



取組実績

これまでの支援状況

H29年度	工学研究科、人間科学研究科等61件 (若手18件、女性28件、 外国人6件、国際共著9件)
H28年度まで	理学研究科、産業科学研究所等83件

H26年度6月から当プログラムを開始して以来、研究者の声を反映させ、支援を更に充実

- 支援対象の拡大: 応募資格を「助教以上」から「特任も含む常勤の研究員、助教以上の研究者」まで拡大。応募者は論文の「第一著者」から「第一著者、責任著者のいずれか」に拡大。H29年度より国際共著論文も支援対象となった。
- 支援内容の追加: 投稿前ピアレビュー、ジャーナル変更によるフォーマット調整、リジェクトの場合の相談等
- 支援チームの増員: 3人のURAを新しく支援チーム(合計5人)に加えることにより、応募者の多い医学、生物、工学分野において支援の質と効率性が更に向上

本事業の目指すイメージ

研究成果の発信を最初から最後まで支援する

費用支援 + URAによる支援



採択者の声

医学系研究科若手研究者より: 英語論文となるとハードルがあがるので、初回は支援があると非常に助かる。支援に加え、URAに相談できる体制があることは非常に頼もしい。

人間科学研究科女性研究者より: 普通の校正会社のコメントと違い、理由を書いてくれるので、理解しやすかった。仲間内だと表現より内容に目が行きがちなので、第三者的にURAの方にコメントをもらえて良かった。



B1-2 若手教員等ホームページ作成支援事業

若手研究者・女性研究者・外国人研究者を対象に、個人の情報発信プラットフォーム(ホームページ)の作成を支援することにより、研究成果の国際的発信力を一層高め、大阪大学の研究力の強化を促進する。



本事業のポイント

●自分の研究をいかに知らせていくかを考える機会として活用できるプログラム

- ① ウェブサイトを構築することによって何を實現したいのか・できるのかを明確にする相談に応じます。
- ② Google 翻訳による多言語化や Bootstrapを活用したレスポンシブサイトなど、自分ですぐに使える2017年の技術動向を紹介します。これらの点を踏まえたウェブサイトの制作と運用計画の立案の相談に応じます。
- ③ 希望者には採択と同時に研究広報用にカスタマイズしたウェブサイトの標準モデルを提供します。文字情報やトップページの画像はもちろんメニュー構造さえ好きな時に柔軟にカスタムできる環境を手にいれることで「その先」を考える余裕が生まれます。



標準モデルの例

●専門職による支援

プロのウェブディレクター・エンジニア経験を持つURAがサポートします。



取組実績



理学・工学・文学・外国語・附置研究所などに所属する多様な研究者ニーズに対応するサービスを行いながら、研究広報・個人ベースの情報発信を抜本的に強化する方策を探索中。

H25年度12月に当プログラムを開始して以来、研究者の声を反映させ、支援を更に充実してきた。応募資格を「助教以上」から「特任も含む常勤の教員」まで拡大した。



採択者の声

●文学系研究科若手研究者より

HPを作成いただいたおかげで、私の研究や教育関連イベントをフェイスブック、ツイッターなどで告知し、そのままホームページに引き込んで私を知って貰う流れを作ることができています。とても役に立っています。授業受講学生に対して休講などの速報をツイッターで流すことで、登録(フォロー)してもらって、イベント周知に利用するというかたちもできました。本当にありがとうございます。

●工学系若手研究者より

研究者としての実績については(大阪大学)研究者総覧や Research Map などのサービスを利用して遅延無く正確に情報を発信すること、またホームページでは外部のサービスにストックできない情報を載せていくというような使い分けのアイデアが新鮮だった。無理なく続けられて、効率のよい情報発信ができるようになった。ありがとうございます。



今後の課題

(平成29年度)

- ① 本支援プログラムで提供する研究広報用ウェブサイトの標準モデルにつき、特にセキュリティに関するリスクを減じるためのノウハウを蓄積する。
- ② 5年間で蓄積したノウハウをもとに、プログラム運用そのもののスマート化を進める。予算および投下人員面でのコストを圧縮しつつサービスの提供対象人数を増やし、物量に頼らず大阪大学の研究力の強化に資する持続可能な事業モデルの樹立を目指す。
- ③ 学内関連部署(ITインフラ担当部署)とのコミュニケーション、意見交換などの総合的連携をさらに高める。

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY研究情報の
国際発信

B1-3 国際公募の推進

大阪大学に優秀な研究者を世界から集める「国際公募」の実施に向け、現状の課題分析、対策立案と評価に基づき、国際公募手続き支援プログラムを実施した。



本事業のポイント

1. 教員・研究員の公募における国際公募を浸透させるために、人事課と協力して、平成28年7月に理事名で国際公募の推進を改めて周知。
2. 各部局における国際公募の実態を詳細に把握するための学内調査を実施。結果、公募関連業務の英文対応の負担が課題であることと判明。
3. 学内調査を踏まえ、国際公募の学内定着に向けて、平成28年度下期から、公募要領の英文作成支援、英文応募資料の点検の協力をURAが実施。
4. 部局向けの国際公募英文化支援マニュアル(ツール)の整備

現状

- ・国際公募割合 約50%(平成27年度)
- ・国際公募に関する部局調査を実施し、回答に基づきより効果的な支援プログラムを検討



今後の課題

- ・大阪大学の国際化に向けた現状の環境を踏まえ、具体的な国際公募支援プログラムの実施
- ・現状に合わせた新しい国際公募支援プログラムの構築(部局向け国際公募用英文作成マニュアルの作成等)

国際公募手続き支援プログラムの内容

- ・公募要領(日本語版)の英文案の作成
- ・各部局作成の点検基準に基づく、応募書類(英文)の点検案の作成
- ・遠隔地とのオンライン面接の実施支援
- ・部局向けの国際公募英文化支援マニュアル(ツール)の作成



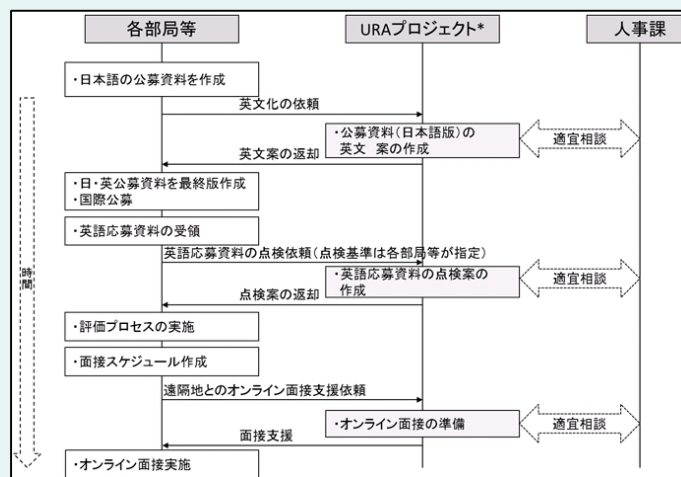
取組実績

実施件数: 23件 (平成30年3月末現在)

- ・フォローアップアンケートの結果より、有用性に関して高い評価
- ・部局による国際公募推進体制に応じた支援プログラムの構築の必要性
- ・部局向けの国際公募英文化支援マニュアル(ツール)の整備(提供は平成30年度から)



英文案の例



国際公募手続き支援の流れ



B1-4 人文・社会科学系研究成果の国際的発信支援事業

人文・社会科学系の研究成果を諸外国に発信するに当たり、言語の壁が大きな障壁となっている現状に鑑み、本学研究者による出版物等の国際的発信(外国語翻訳業務等)を支援することによって本学の研究分野における国際的な存在感を高める。



本事業のポイント

本学の教員によって日本語で著述された「人文・社会科学系の研究者向けあるいは一般向け図書(単著・論文集)」または「大学生または大学院生向け教科書」として既に出版されており、一定の評価を得たものに対して、英訳費用を最大300万円支援する。



取組実績

支援年度	支援件数(件)	支援結果
平成29年度	1	書籍1点の英訳支援が決定し、平成30年度末までに出版予定。
平成28年度	2	書籍2点の英訳支援が決定し、平成28年度末までに翻訳、平成29年度末までに出版予定。
平成27年度	5	書籍5点の英訳を完了し、すべての英訳出版が完了している。

平成27年度は他の期限付経費による支援



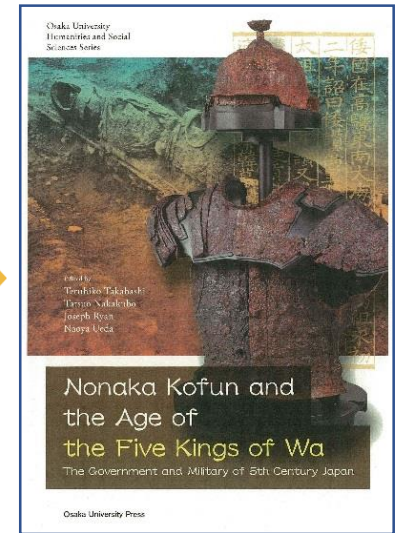
得られた成果

支援例



高橋 照彦、中久保 辰夫 編著
ISBN978-4-87259-220-7
大阪大学出版会

英訳



高橋 照彦、中久保 辰夫 編著
ISBN978-4-87259-549-9
大阪大学出版会



B1-5 研究成果の国際的発信支援プログラム:セミナー等

関係部局と緊密に連携し、国内外から専門家を招き、下記の研究成果の国際的発信をテーマとしたセミナーやワークショップを企画、実施した。



本事業のポイント

英語論文の投稿支援事業の取組実績(個別支援)を踏まえ、より幅広い研究者、学生や関係者に、英語論文の書き方、海外ジャーナルへの論文投稿における対策等について知見を深めてもらうため、セミナー等を企画・実施しています。



取組実績

平成29年度

● 平成30年1月23日 クリティカル・シンキングに基づいた英語論文の書き方セミナー

(共同主催:附属図書館、協力:全学教育推進機構教育学習支援部、キャリアセンター)

参加者:本学の研究者、大学院生等61人

● 平成29年12月6日 How to Publish Your Articles/ Books? Advice from Cambridge University Pressセミナー

(共同主催:附属図書館)

参加者:本学の研究者、大学院生等43人

● 平成29年10月27日 人文社会科学系研究者のための英語論文の書き方セミナー

(共同主催:附属図書館)

参加者:本学の教職員等40人

その他

- 部局のリクエストに応じ、講師を紹介すること等により、部局が企画するセミナーの開催に協力した。
- 全学教育推進機構教育学習支援部、キャリアセンター主催「トランスファラブル・スキルズ・ワークショップ」シリーズに参画し、関連セミナーの企画または連携体制の改善を行った。
- 2017年8月31日、URA組織間のネットワーク作りを目的に、東京工業大学、広島大学等6大学参加の「研究成果の国際的発信支援に関する意見交換会」を企画・開催した。

セミナー・ワークショップの様子



H30-1-23
クリティカル・シンキングに基づいた
英語論文の書き方セミナー



H29-12-6
How to Publish Your Articles/ Books?
Advice from Cambridge University
Pressセミナー



H29-10-27
人文社会科学系研究者のための
英語論文の書き方セミナー